

赤煉瓦

UNIVERSITY OF OCCUPATIONAL
AND
ENVIRONMENTAL HEALTH,
JAPAN



同窓会誌

第36号

2021年9月

産業医科大学医学部同窓会 龍ヶ池会

目 次

巻 頭 言	医学部同窓会 会 長 宮 本 俊 明 (7 回生) 3
副会長新任挨拶	西 賢一郎 (20回生) 5
退任のご挨拶	放射線科学 教 授 興 梶 征 典 7
新任のご挨拶 (学内)	放射線科学 教 授 青 木 隆 敏 (6 回生) 9
	第2内科学 教 授 片 岡 雅 晴 12
	脳卒中血管内科学 教 授 田 中 優 子 (20回生) 14
	労働衛生工学 教 授 東 秀 憲 16
新任のご挨拶、近況報告 (学外)	
	昭和大学横浜市北部病院 臨床病理診断科 教 授 亀 山 香 織 (5 回生) 18
	佐賀大学循環器内科 心血管不全治療学講座 教 授 園 田 信 成 (8 回生) 20
	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 泌尿器集学的治療学 教 授 溝 上 敦 (4 回生) 22
	北里大学 医学部 膠原病感染内科 教 授 山 岡 邦 宏 (10回生) 25
	金沢医科大学 臨床病理学 教 授 山 田 壮 亮 (19回生) 28
特 集	2020年学生支援について報告 (大学) 31
報 告	産業医学推進研究会全国会・地方会報告
	全国会報告 32
	地方会報告 34
産業医学推進研究会全国大会のご案内	 41
研究会活動報告と研究助成の案内	 42

事務連絡

同窓会役員	 58
終身会費納入状況（1回生～10回生）	 59
訃報連絡	 60
令和2年度 会計報告	 61
令和2年度 活動報告・卒業生メーリングリストのお知らせ	 62
事務局からのお願い	 63

特集

👉 コロナ禍における学生への支援について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の全国への拡大に伴い、4月からすべての学年がオンライン授業となり、中でも新入生については、5月中まで一度も入構できない状態となったことから、学生生活に不安を抱える学生の状況を早期に確認するため、指導教員によるオンライン・電話による面談を行い状況確認し、適切な指導を行いました。

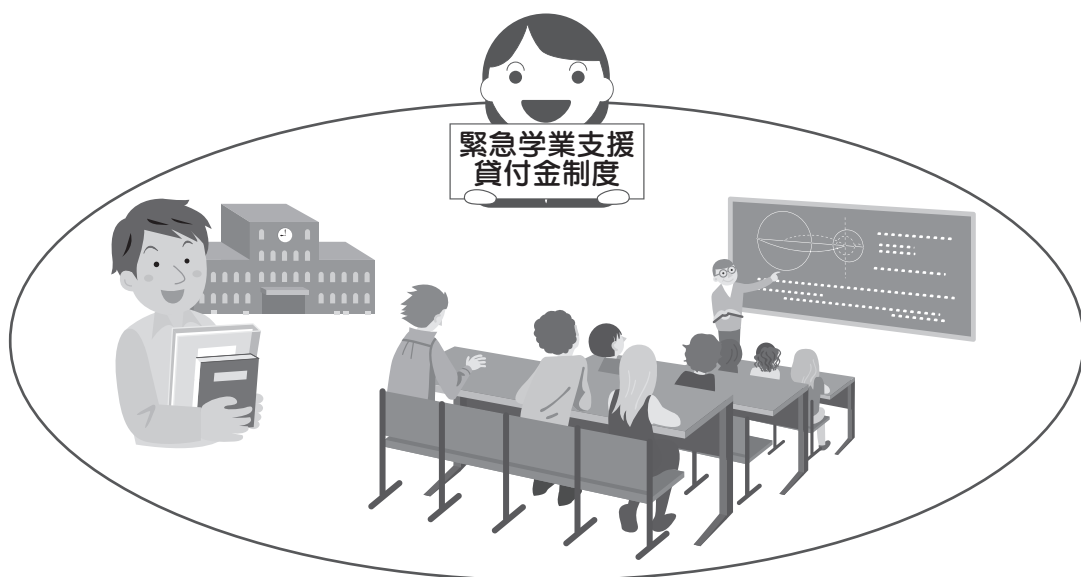
新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、アルバイトができなくなった学生や保護者からの仕送りが減少し、金銭的に修学の継続が困難な学生に対しては、本学の関係者様からご寄付頂きました開学40周年記念事業を財源とした、本学独自の『緊急学業支援貸付金制度』の運用を緩和し、授業料等（授業料、施設設備

費及び実験実習費）の納入に支障を生じると認められる者に対して、緊急学業支援貸付金（無利子で年額30万円を限度として貸付）を貸付け、数十名の学生がこの制度を利用し、授業料等未納による除籍を回避することができました。

また、文部科学省からの学生支援緊急給付金給付事業（「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』）についても取りまとめ当該学生を日本学生支援機構に推薦し、全員が給付を受けることができました。

令和3年度も昨年度の新型コロナウイルス感染症対策への経験を踏まえ、緊急学業支援貸付金制度を継続するとともに、学生への各種支援の強化に努めています。

学生課



報告

産業医学推進研究会全国大会・地方会報告

第32回産業医学推進研究会全国大会 開催報告

実行委員長 浅 海 洋 (九州旅客鉄道株式会社、医学部17回生)
事務局 山 本 千 紗 (西日本産業衛生会 看護科17期卒：文責)
事務局 阿 部 はるな (同 看護科19期卒)

2020年10月10日(土)、第32回産推研全国大会を第38回産業医科大学学会(以下、大学学会)と共同開催致しました。全国大会としては初のオンライン開催になりました。

大会・学会参加者数は291名(大学学会のみ参加13名)、学外参加者 147名(医学部卒106名、短大・専攻科・産業保健学部卒 26名、来賓その他 15名)、学内参加者 73名、学生 50名(医学部 27名、産業保健学部 17名、大学院生 6名)となりました。

開会式では、両大会長の挨拶の後、来賓代表として厚生労働省 高倉俊二労働衛生課長及び産業医科大学 生田正之 理事長にビデオレターをお寄せ頂きました。

産推研主催シンポジウム『『人生100年時代』卒業生の紆余曲折』(座長：浅海洋 九州旅客鉄道株式会社 医17回生)では、生活や就労環境の様々な変化をご経験され、活躍されている卒業生に登壇いただきました。村上美紀 先生(むらかみ眼科医院 医5回生)、中谷淳子 先生(産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学 専

攻科13期)、渡邊聖二 先生(西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所 医9回生)、吉積宏治 先生(吉積労働衛生コンサルタント事務所 医10回生)に、お話をいただきました。仕事と家庭の両立、人生の転機、環境の変化、そして新たな挑戦。苦難の時に支えになった仲間や家族、周囲の人達との絆や感謝のエピソードから、変化に富むこれからの時代を進む勇気を頂きました。



産推研主催シンポジウム

大学学会主催のシンポジウム「新型コロナウイルス対応」(座長：遠藤元誉 先生 産業医科大学 分子生物学 教授、高橋富美 先生 産業医科大学 薬理学 教授)では、諸富伸夫 先生(厚生労働省 医19回生)、和田耕治 先生(国際医

療福祉大学 医学部 公衆衛生学 医17回生)に講演を頂きました。最前線でご活躍されるお二人のお話には、参加者からもたくさんの質問が集まりました。また、お二人とも、「現在の社会において最も大事なものを産業医科大学の建学の使命に見つけた」とお話しされており、卒業生としての強いつながりを感じました。



大学学会主催シンポジウム

特別講演「人生満足度を KPI とするポジティブ心理学的健康経営」(座長：長嶺紘子先生 西鉄人事サービス株式会社 看2期生)では、トヨタ自動車株式会社の奥山真司 先生(人事部 主査・統括精神科医)にお話を頂きました。ウィズコロナ時代の統合的健康経営活動の全体的概要と中核的三本柱(マンスリーメルマガ、予約システムとコンサルテーション、社内教育)について、社内で実際に用いられている資料をもとにご紹介頂きました。

特別企画「新学長・新会長対談『新』時代を語る」(座長：岡崎龍史 先生 産業医科大学 放射線衛生管理学 教授 7回生、浅海洋)では、産業医科大学 尾辻豊 学長と産業医学推進研究会 西賢一郎 会長にご対談を頂きました。対談を通して、大学の未来について真摯に語る尾辻学長と、産推研の展望について力強く語る西会長、お二人の姿がそれぞれとても印象的でした。

懇親会もオンラインでの実施となりました。

参加者70～80名(学生の参加含む)と多くの皆様にご参加頂き、交流を深めて頂きました。

演者、座長、ご参加の皆さまから、温かい応援や手助けによって、なんとか大会を終えることができました。また、安藤肇 先生(産業医科大学 作業関連疾患予防学研究室 医28回生)には多大なる技術的支援をいただき、何とか無事に大会を終えることができました。

参加した学生からは「オンラインという不慣れな環境下であっても、必ずや大会を成功させようとする卒業生の熱い想いが伝わった」との感想も届きました。

ご来賓の皆様、講師の先生、大学の関係者の皆様、ご参加頂いた皆様、ご支援・ご助力を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



集合写真

産推研関東地方会の開催報告と今後の方針

ヘルスデザイン株式会社 坂 本 宣 明 (19回生)



皆様、こんにちは。医学部19回生の坂本です。産推研関東地方会会長を務めさせて頂いております（早いもので9年目）。

さて今回は、2020年7月に行った産推研関東地方会での研修会報告と関東地方会での活動方針をご報告致します。

その1 アルコール依存症等の研修会報告

2020年7月に「アルコール、ギャンブル、ゲーム依存の最近の状況」と題して、樋口進先生（久里浜医療センター院長）にご講演頂きました。コロナ禍のため、集合研修ではなくオンライン研修会として開催しました。全国から61名が参加しました！

講演では、管理職は問題飲酒となりやすいため、職域での対応の重要性が指摘されました。久里浜病院でのアルコール依存症への対応例や、薬物治療のエビデンスなどを説明頂きました。ギャンブル依存は、パチンコ・パチスロが競馬等に比べて多い状況と、治療アプローチとして認知行動療法が重要であると説明頂きました。ゲーム依存は、中高生のネット依存やオンラインゲームが問題となっており、家庭生活にも支障をきたしていく現状が共有されました。

講演会後は、オンラインを繋げたまま、約20名の方が残って懇親会を行い、親交を深めました。講演内容の詳細は産推研ホームページにも記載しておりますのでぜひご確認ください。

その2 関東地方会での産推研全国大会の運営方針

産推研では毎年、全国の産推研会員が集まる

全国大会を各地方会が持ち回りで担当して開催しています。関東地方会は3年に1回、幹事を担当することに以前から決まっており、2022年は関東地方会が担当する予定になっています。

さて、今までは関東地方会では暗黙の了解として、医学部の学年順に幹事を担当することが代々行われてきました（例えば、13回生→14回生→15回生（＝2018年）という順番です）。しかし、この関東地方会独自の方法での運営が難しくなってきたため、新たな方針を作るべく、2021年2月から4月にかけて、関東地方会所属の医16回生から医21回生までの先生方とメール等で議論を交わしました。そして、今後は下記の方針で幹事を担当していくことに決定しましたので、この場を借りてご報告します（なお、これは関東地方会のローカルルールのお話です）。

- ・幹事担当は、3学年制（2022年は医16-17-18回生が担当、2025年は医19-20-21回生が担当、以後も幹事3学年制で続く予定）
- ・実行委員長は、原則、各学年から1人以上選出する
- ・幹事学年による準備委員会を開催し、準備委員や企画内容を検討していく

しかしながら、会員の皆様は誰もが多忙だと思います。そのため、まだまだ試行錯誤しながらの運用となるかもしれませんが、ポジティブに開催できるように、今後も皆様のお力をお借りしながら進んでいければと思っています。

以上、関東地方会からご報告させていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます！

産業医学推進研究会東海地方会 活動報告

東海地方会会長兼同会会長 西 賢一郎（20回生）

東海地方会は、81名（医学部51名、短大・専攻科・看護学科22名、衛生学科・環境マネジメント学科8名 2021年5月末現在）と小さな組織ではありますが、アットホームで元気のある地方会です。コロナ禍の影響にも負けず活動を行い、第22回例会を2020年8月1日（土）、第23回例会を2021年3月7日（日）に開催しました。

第22回例会は加藤憲忠先生（13回生 富士電機 大崎地区健康管理センター 産業医）より「コロナ禍の今こそ学ぼう、ダブル専門医から学ぶ働く人に役立つ睡眠の重要性」をご講演頂きました。「産業保健活動に使える『実践』睡眠医学」として、メンタルヘルス対策に、面接指導では聞きやすい睡眠状況の確認や不眠（2週間以上、週3回以上続く）を認めた際には「興味の減退」、「食欲低下」をうつ病鑑別のために確認することの重要性を強調され、多忙な勤労世代への睡眠衛生指導場面において、エビデンスの一方的な提供ではなく、対象者が大切にしたいものをうまく行うためにどのように眠れば良いのかという立場でサポートすること、朝食を抜かない、遅い時間の夕食を避ける、朝起床後なるべく早く太陽の光を浴びる、夜遅くのブルーライトを避けることなどデータを示しながら概日リズムをキーワードとしたメタボ対策、昨今の働き方として注目のテレワークにおいて夜遅くのICT利用、通勤がない状況であるため日当たりの良い部屋での朝食摂取、昼食後、夕食後のウォーキングを指導する必要性をお話しされました。「産業医・産業保健スタッフのための漢方入門」では、生薬、生薬構成、

方剤名の成り立ち、エビデンスについて解説いただき、薬剤の名前が難しく理解しづらいイメージであった漢方を身近に感じることができたとともに、漢方薬を内服する労働者支援に活用できる知識を多く学ぶことができました。

23回例会は「サンスイケンだョ！全員集合！！～コロナ禍を乗り越えるためにメンバー全員の英知を結集～」をテーマに、会員報告と新型コロナウイルス対策に関するグループディスカッションを行いました。会員報告では医学部卒の大須賀淳先生（32回生 デンソー産業医）から、フッ化水素ばく露に対するグルコン酸カルシウムの使用の事例や、鉛フリーはんだ取扱い作業に対する特殊健康診断実施有無の検討、新型コロナウイルス対応について報告がありました。その後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、6つグループで、「コロナ禍で起きた問題や課題」、「コロナを乗り切るための工夫や取り組み」についてディスカッションしました。ディスカッション後は、他グループ発表を聞き、所属・業種・職種が異なる立場



第22回例会

からこの1年で見えた課題、取り組みがわかり、今後も続く新型コロナ対応に活用できる内容でした。

オンライン開催で22回例会の参加者は過去

最高の68名、23回例会は39名と東海地方会以外の皆様にも多く参加されました。2021年度も引き続き元気な東海地方会で活動します。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。



第23回例会

近畿地方会 活動報告

三菱電機神戸製作所 堤

雄 介 (27回生)

近畿地方会は2020年9月5日（土）に第44回例会、2021年2月27日（土）に第45回例会を開催しました。

コロナ禍での産業保健活動には不安や困惑がある中、Zoomを用いたオンラインでの開催で実施ではありますが、地方会での繋がりや学びを通して活力を頂いております。

第44回例会はZoomを用いたオンラインで実施し、各地から63名にお集まり頂き、「新型コロナウイルス対策～各方面、各フェーズにおいて～」というテーマで実施致しました。座長には河津 雄一郎先生（株式会社平和堂 統括産業医）、演者には、医系技官の立場から：野口裕輔先生（厚生労働省）・専属産業医の立場から：菅 秀太郎先生（株式会社シマノ）・感染症専門家の立場から：和田 耕治先生（国際医療福祉大学）の3名の先生方からご講演を頂き、最後に全体討論を実施して頂きました。

野口先生のご講演では医系技官の立場から、コールセンターの実情やダイヤモンドプリンセス号の事実を現場感あふれる形でご講演頂きました。コールセンター業務では常に相手の不安に寄り添う姿勢が大切であるという言葉大変印象に残りました。我々も日々の業務において、不安を取り除くことの大切さを再認識させられました。

菅先生のご講演では専属産業医の立場から、如何にして、会社や労働者と接することが必要かについて、リスクコミュニケーションの6つの原則に従って分かり易くご説明頂きました。

スライド中には実際に安全衛生委員会で用いられた資料なども共有頂き、迅速かつ、相手に分かり易い説明の重要性を再認識させられました。

最後に和田先生より感染症専門家の立場から、まずは、日本におけるコロナウイルス対策の現状を報告頂き、後半はPCR検査の意義についてご講演頂きました。特に、無症状者に対するスクリーニング的なPCR検査の必要性の有無について、科学的根拠を元にご説明頂きました。産業医としても企業から今後相談も受ける事が想定される事もあり、非常に有意義なものでした。

また、3人の先生方が共通して、常に相手の心を意識されている事が印象的でした。

第45回例会もZoomを用いたオンラインで実施し、各地から62名にお集まり頂き、「コロナウイルスがもたらした生活変容への対応～産業保健活動の実際～」というテーマで実施致しました。座長には深井 恭佑先生（産業医学推進研究会 近畿地方会長）、演者には松平 浩先生（東大病院22世紀医療センター）・永田 智久先生（産業医科大学 産業保健経営学）・柴田 喜幸先生（産業医科大学 実務研修センター）の3名の先生にご登壇頂き、最後に質疑応答ならびに全体討論を実施していただきました。

松平先生には「コロナウイルス感染症下でも実践できる運動/体操指導」というテーマでご講演頂きました。仕事に及ぼす健康上の不調の上位を占め、さらに在宅勤務の導入により割合が増加している肩凝りや腰痛、眼精疲労対策として、これだけ体操や美ボディ体操、ストレッチ、

スクワットなどをご紹介いただき、各参加者が画面の前で実践しながら受講しました。また痛みとストレスの関連性から、体操を通じたマインドフルネスについてもご紹介頂きました。簡単に取り組むことができる体操ばかりで、職場でも実践できる内容でした。肩凝りや腰痛および睡眠や気分障害という心身両面の包括的対策の重要性を感じました。

永田先生には「コロナウイルス感染症がもたらした在宅勤務による生活習慣変容と生産性」というテーマで、実施された研究および調査を中心に講演いただきました。特に肩凝りや腰痛によるプレゼンティーイズムの影響がさらに高まっているという結果や、一方で、適度な頻度の在宅勤務はワークエンゲージメントを高める可能性があるという研究結果について、また Health Impact Assessment という手法についてもご紹介いただきました（HIA については産業保健経営学教室の HP に掲載されています）。在宅勤務による影響についてこの1年で多くのエビデンスが蓄積されてきておりますので、これらを有効活用して、在宅勤務がより健康的に、より生産的になるように環境整備など対策を検討し、人事総務部門とも適宜連携していくことが重要になると感じました。一方で、在宅勤務ができない職種の従業員への対策も合わせて検討していくことが求められるとのことでした。

柴田先生には「コロナウイルス感染症により急速に普及した ICT を用いた産業保健活動において、効果的な教育方法」というテーマで講演いただきました。Zoom を用いた教育での良好事例、失敗事例を実際に体験しながら受講しました。特に、ICT という媒体を使った研修においても、対面での研修同様に、対象者分析を丁寧に行う必要があり、阻害要因を把握するためには Zoom など ICT に詳しくない人も交えて検討するなど、事務局ならびに講師の事前

準備が重要とのことでした。また、匿名性の高さなど ICT による研修の利点を踏まえ、一方的な研修とならないように、ICT の機能を活用して、受講者に問いながら研修できるように工夫することが必要と感じました。

先生方のご講演後まとめて質疑応答が行われ、最後に、座長の深井先生からの「これからの産業保健活動における変えるべきマインドセット・変えるべきではないマインドセットとは？」という質問について演者の先生方よりご意見をいただきました。「家族も巻き込んだ健康経営」、「コミュニケーション向上の一手段としての運動やストレッチ」、「法令に基づく活動から必要だからやる産業保健」、「選任義務がなくなっても雇用され続ける産業保健」、「経営層と企業の戦略やビジネスの話しができるスキル」というキーワードが出されました。

両例会共に講演会終了後には Zoom のブレイクアウトルームを利用して懇親会も実施しました。懇親会にはそれぞれ15名・20名の参加を頂き、3部屋・4部屋に分けて、懇親を深めて頂きました。従来の現地開催では、なかなか参加が難しい関西地区以外の先生方もご参加いただき、活発な意見交換をすることができました。

コロナ禍で混沌とする中、座長、演者、参加者の皆さまには、ご協力頂きながら例会を継続できていることにこの場をお借りして感謝申し上げます。依然として気の抜けない日が続いておりますが引き続き皆様お体ご自愛下さい。今後ともよろしくお願い致します。

九州地方会 活動報告

会 長 浅 海 洋 (九州旅客鉄道株式会社、医学部17回生)
事務局 山 本 千 紗 (西日本産業衛生会 保健師 看護科17期卒)
事務局 阿 部 はるな (同 看護科19期卒)

2020年度の九州地方会の活動についてご報告いたします。

2020年1月11日に第45回地方会「性同一性障害・多様な性」を開催しました。5月にも地方会を開催予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑みて、延期いたしました。

このほかに新たな企画として、「先輩と話そう！」を実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、バイトができなくなり、仕送りが少なくなったりするなど、経済的に困窮している学生を支援する事や、授業がオンラインになって学生同士の交流が少なくなった学生たちを支援するものです。オンラインで

先輩と話す場・食事代の提供を行いました。学生40名、卒業生60名（のべ）に参加いただきました。

第45回地方会は2020年1月11日に博多駅バスターミナル大ホールで産業衛生学会九州地方会産業医部会医師会、福岡産業保健総合支援センターとの共催で開催しました。講師に福岡大学医学部精神医学教室 助教 永野健太先生をお招きし、多様なジェンダーについてご講演いただきました（参加者38名）。

従来の男性・女性といった二元論での分類では、悩んだり、困っている人がいること、また悩んだり、困ったりしている事自体が共有されにくいこと、従来の男性・女性に当てはまらない



いことを常識や道徳に反することのように言う人がまだ多いことが指摘されました。

また、自身の意志とは関係なく、カミングアウトされてしまう（強要されてしまう）といった「アウティング」について話がありました。過去にも問題になった例があるから、すべきではないというだけではなく、本人の意思を丁寧に確認したり、その選んだ状態によって不利益を生じたり、差別を受けたりすることが無いようにしたりしないといけません。個々人が気持ちよく働くことができる環境を維持するために、知識を提供や、教育を行うことが産業保健スタッフには望まれるようになることが予測され、今後も関心を持って接していくことが必要であると痛感しました。

また、私達自身がセクシャルマイノリティについて語る前に、自分たちのセクシャリティについて目を背けてはいけないということも提言されました。議論も幅広く尽くされ、非常に充実した研究会となりました。

